

令和 2 年度第 1 回行政評価市民会議

日 時：令和 2 年 9 月 2 日（水）18 時 30 分～20 時 25 分

場 所：鹿角市役所 第 1・2 会議室

出席委員：7 名（欠席：1 名）

出席職員：〔政策企画課〕課長、政策監、
主査、主査、主査

1 開会（進行：政策企画課 主査）

ただいまから、令和 2 年度第 1 回行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

暑い日が続きますが、熱中症に気をつけながら頑張りましょう。よろしくお願いします。

3 案件

（1） 市民アンケートの実施結果について（資料 1）

説明：政策企画課 主査

（委員）全体的に、改善傾向が見られるのは良かったと思います。運動についての設問に関連して、チャレンジデーののぼり旗はよく目にするのですが、いつ実施しているのかが分かりにくいと感じます。広報に掲載しているとは思いますが、ポスターに日付を入れるなど、もう少し周知すると認知度も上がるのではないかと思います。今後力を入れるべき教育の項目についてですが、抽象的な選択肢になっているので、これからの具体化に向けて、それぞれの学校の方向性があれば良いと思います。地域医療については、男性からも産科医の確保を望む声があるということでしたが、自分のまわりでも大館までの送迎が大変だし、仕事を休みづらいという話を聞くので、現在も交通費助成制度はありますが、職場の理解や仕事を休んだことへの手当などもあれば不満の解消になるのではないかと思います。（事務局）チャレンジデーの実施日は、毎年 5 月の第 4 水曜日に固定されています。一例として、自治会ぐるみでも取り組んでいただいているので、自治会を通じて周知をお願いしています。今日のご意見を担当にも伝え、より分かりやすいようにしたいと思います。また、大館までの通院支援については、休暇取得した分の金銭面の補償を市が行うのは難しいと思いますが、職場の理解に関しては、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して取り組んでいますので、必要な経済的支援を行いつつ、理解が広がるような取組みを進めていきたいと考えております。

(事務局) 学校教育に関しては、中学校は旧村町単位で1つずつになり、小学校も柴平小学校に統合すると、同じような数になりますが、この先、さらに人口減少が進み、国が示す標準的な規模を満たさなくなった場合、統合はやむを得ないと思うかを設問としています。結果は、統合はやむを得ないという回答が一番多かったのですが、今後の統合については時期を定めて考えている訳ではなく、子どもの数の推移を見ながら、今後考えていくことになると思います。高校は令和6年に統合しますが、市内に1校になりますので、これまでよりも「地域で子どもを育てる」という意識を強く持って市も関わりを持っていきたいと考えています。

(委員) 中学校から勉強を頑張らせたいが、競争意識が弱くて伸び悩む傾向が見られるという話を聞いたので、競争意識を育てることも必要だと思います。

(事務局) 進学をしたいという強い気持ちを持たせることも大切ですし、基礎学力がその先につながりますので、そこに力を入れる取組みについても教育委員会で検討しているところです。

(委員) 医師を目指したいとなったときに、鹿角の高校では話にならないということがないよう、進学クラスも充実してほしいと思います。

(委員) 鹿角に愛着を持つ人が前年より増えている結果になっているのは良いことだと感じました。いろいろな取組みが成果として出ているのではないかと思います。学校統合については、やむを得ないと思います。尾去沢では、中学校の部活動が3種目しかなく、小学校でやっていたスポーツを続けられないのは可哀想に感じるので、部活動以外にも参加できるスポーツ団体を充実できれば良いのではないかと思います。週1回以上の運動については、若い世代であまり良い結果ではないようですが、私の職場では、1日4,500歩を歩きましょうという目標を立てて、順位をつけています。意識的に歩くようになるので、そのような取組みも良いのではないかと思います。

(事務局) 学校統合については、教育環境を標準的な規模とするのが学校教育の質を高めるという方向性を優先して取り組んできましたが、再編もひと段落した中で、今回のアンケートで様々なご意見をいただいているので、今後の検討に生かします。

(委員) 医療と教育の充実が、生活の安心につながると感じました。先ほどの学校統合も、合理化だけで判断して良いのかという問題もありますし、統合するとしても何か新しい取組みを期待してしまいます。アンケートでは満足度として問いかけていますが、私は、満足度は与えられたものに対して感じるものではないかと考えており、際限がないような気がします。自分はどうすれば満足感を得られるのかと考えると、満足感は幸福度や安心感と言い換えることができ、それを得るためには、自らも発信して取り組む力が必要だと思います。例えば統合や医療に関して、受け入れながらも自ら考えて、子どもたちも一緒に考えることができれば、それが教育になるのかなと思いました。

(委員) アンケート結果は、私の考えと同じような結果だと感じました。安全で安心して暮らせるまちだと思うという結果が77.6%で、非常に高く、鹿角は安心して暮らせるところだとしみじみ感じました。いろいろな活動の結果だと安心しました。

(委員) 子育てや住みごごち、愛着に関する結果が前回よりも改善しているのは良いことだと思います。社会活動、地域活動についても前回数字を上回っているのは、地域に何か還元するという流れの表れなのかなと感じました。効果が得られているものは、行政も力を入れているところで、市民も効果を感じている部分だと思いますが、自由意見では、行政の窓口対応についての不満意見も見受けられま

す。そういう部分に対応していればもっと数字が良くなるのではないかと思います。また、子どもの数が少ないから統廃合しなければならないということも分かりますが、これからのリモート技術で鹿角に住み続けられる環境にするとか、廃校を活用して体験や交流の場にするなど、人口減少と学校の統廃合が悪循環にならないような政策も考えていかなければならないと思います。

(事務局) リモート技術は、これまでもあったものが今回のコロナ禍で一気に加速したところもあると思います。仕事や教育などに生かせる分野なので、これからも取組みを進めたいと考えています。廃校の活用に関しては、優先順位としては、地域の人に利活用してもらいたいというのが第一で、それが叶わなければ産業面での活用を検討する方向性としています。

(委員) アンケート結果は、目標に対して良い結果が出ているように感じます。力を入れてもらいたいものでは、公共交通や中心市街地に関する部分が多いですが、現代社会においては難しいところなので、他市町村の状況も見ながら頑張るしかないと思います。横手市の送迎バスのニュースを見ましたが、そういうものを取り入れられれば免許証を返納した高齢者も助かるのではないかと思います。

(事務局) 公共交通に関しては、アンケートの結果から、若い世代で必要性を感じていないという部分が表れていると思います。しかし、公共交通を必要とする方は増えますし、やるべきことはやらなければならないと考えています。市では、通常のバス路線維持だけではなく、自治会単位でタクシーを主体とした新しい利用形態を進めています。また、これまでバスが通っていなかった山間部でもルート設定をして、中心市街地と自治会をつなぐ交通手段の確保に取り組んでいます。ただ、タクシーの運転手の確保が課題ですので、横手市のようにプロのドライバーではなく、例えば自治会での取組みにするとすれば、どのようなサポートをしていくべきかなどの検討が必要だと考えています。

(会長) 鹿角市は安心安全に暮らせるまちか、というアンケート結果が77.6%です。最近、米代川流域では、他県から鮎釣りをする人がたくさん来ていますが、地元の人はそのような良いところを生かせず、ただ見ているだけの人が多いようです。観光の振興にも影響すると思いますが、こういう地元の良いものを活用できれば良いと思います。学校教育の話もありましたが、先日、地元の学校の先生と話す機会があり、最近の子どもたちは大きくなるにつれ、将来の目標が持てなくなってくるようです。少子化で子どもが少なくなっても、親が必要なことを教え、環境を整えてあげることができれば、子どもは自然と目標を持ち、そこに向かっていくと思います。

(2) 第6次総合計画後期基本計画重点プロジェクト評価及び施策評価について(資料2)

説明：政策企画課 政策監

(委員) 評価については、数値を基に評価したものだと思うので、これでいいと思います。

(委員) いろいろな施策に対し、厳しく評価していると思います。市もいろいろな考えを持って取り組んでいると思うのですが、地域ごとに合った対策もあると思います。もう少し、ざっくばらんに市民の声を拾えるような仕組みがあればいいと思います。私の自治会では様々な活動のために頻繁に集まっていて、そのような時に良い意見が出るのですが、それを文章化するとなると難しいので、簡単に市民の意見を吸い上げてもらえれば評価も上がってくるのではないかと思います。

(事務局) 昔、衛生環境があまり良くなかった時代に、「掃除検査」といって市が自治会単位で検査に行くような取組みがあり、反省会などに職員も参加していたようです。現在は地区担当員制度がありますが、ざっくばらんに話を聞く機会など、何かいいアイディアがあれば考えていきたいと思います。

(委員) 自治会で祭りをやるときに補助を活用するための申請手続きが面倒なので、市の職員が実際に見に来て確認してくれれば簡単に済むのではないかと、思っています。

(事務局) 庁内でご意見を共有したいと思います。

(委員) 私の自治会では、空き家の取扱いの説明で市の職員から説明があったのですが、非常にざっくばらんに話をしていたという記憶があります。参加者も多く、より自分たちの現状を知る機会になり、意見交換ができたと思います。地域や自治会に職員が来てくれるという経験はあるのですが、例えば、企業と市と学校などがトライアングルになって話し合う機会があれば、違う意見が出てくるのではないかと思います。企業は地域のことも分かっているので、違う目線で分かるのではないかと思います。

(委員) 子育てに関する評価が、出生率によって低くなっていると思うのですが、結婚する人が少ないというところから取り組んでいかなければならないのかなと思いました。

(事務局) 現在、平成 27 年に作成した人口ビジョンという将来人口の見通しについて、見直し作業をしています。その中で、現状として捉えられる課題が 2 つあります。一つは未婚率の上昇、もう一つは晩婚化です。これまでの鹿角市の合計特殊出生率は 1.58 でしたが、最新の数字は 1.43 となり、これらの課題が影響していると考えられます。未婚率では、特に男性の未婚率が高くなっており、また、晩婚化によって出産する母の年齢が上がる傾向も見られます。若い年代で第 1 子を持てれば、第 2 子、第 3 子も産むという可能性も高まると思いますので、結婚を含めた総合的な出生力を高めていくことが必要だと考えています。市では移住政策を進め、若い世代も呼び込んでいますし、次期総合計画では、市民の出生力を高めることと移住促進の両方の取組みを進めていきたいと思います。

(委員) 先ほど、健診で大館まで通うのが大変だという話がありましたが、送迎バスを出せば良いのではないかと思います。

(事務局) そのようなニーズについても、子育ての包括窓口で直にお話を聞きながら、新たに改善すべき点があれば検討していきたいと思います。

(委員) 大館まで通って産んだ経験から、大変だからもう産まないと思う人もいると思うので、それが合計特殊出生率の低さに拍車をかけているのではないかと思います。また、令和 2 年時点での目標値が設定されていますが、このコロナ禍で状況が変わってしまって、ほとんど意味が無くなっているのではないかと感じています。特に観光や移住に関しては厳しい目標になっていると思います。段階的な回復も見込まれるという記載もありますが、それが来年のことなのか、もっと先になるのか分からないので、世の中をどうしていくかということも考えていかなければならないのではないかと思います。

(会長) 昔は産婆さんが出産に立ち会っていたので、医師がパソコンを使ってリモートで診療して、出産のときには産婆さんをお願いするのはどうかと思いました。あれもこれも、できればいいのですが、無いものねだりで求めてばかりなのも、市の財政が心配になります。できることをやって、鹿角の良いところを伸ばしていけば良いのではないかと思います。

(事務局) 掲げた成果指標に対して、数値で出た結果を基に市が自己評価をしています。この市民会議は、数字の結果以外の部分でも、取組みの内容や日常で感じていることを踏まえて、もっと評価を上げてもいいとか、評価を下げた方がいいというご意見をいただく場です。観光の成果指標については、今回の新型コロナウイルスの影響で指標の達成が難しいという状況もありますが、個々の取組みですと、海外向けの誘客から国内需要の獲得に切り替えるなどの対応をしています。ただ、もう少し将来を見据えて多面的に考えていくということも必要だと考えていますので、そのような観点からご意見いただきたいと思います。

(会長) コロナ禍は続くと思います。アジア方面からの観光客が来ればいいですが、待っていても仕方がないので、北東北3県などの範囲でできることを考えていけばいいのかなと思います。

(事務局) 観光に関しては、北東北3県在住の方を対象に1万円の割引サービスを実施しましたが、およそ昨年比7割くらいの集客率ということなので、それほど深刻な状況ではないようです。ただ、Go To キャンペーンが始まり第2波が危惧されると、期待していた集客結果ではなくなっているようなので、これから厳しくなると予想されますが、今後3,000円助成のキャンペーンなどによって、引き続き北東北3県をターゲットに取り組みたいと思います。近県から訪れてもらえるような取組みを第一優先として、まずは国内向けに頑張りたいと思います。また、移住者数の落ち込みはないのですが、大学のゼミの誘致や葛飾区との交流などの部分が困難になっていますし、芸術文化系やスポーツ大会の開催なども影響を受けていますので、次期計画では、コロナ禍も意識した目標設定を考えたいと思います。

(会長) 農産物のブランド化の取組みの中で、かづの牛はまだ頭数が足りないのですか。かづの牛を食べてみたいと思っても、どこで食べられるのか分かりません。

(事務局) 直売所や地元スーパーで、年中購入できるようにはなっています。3店舗くらいの飲食店では、かづの牛を使ったメニューが提供されています。今は500頭くらいの飼育頭数を維持しています。

(会長) 先日、大館市で比内地鶏を安く販売するキャンペーンのニュースを見たので、鹿角でも同様の取組みができるといいと思いました。もっと気軽に購入できて、市民に対しても宣伝できればいいと思います。

(事務局) 先ほどの、企業と市と教育機関との話し合いの場を持ったかどうかというご意見について詳しく教えていただきたいのですが、教育分野の話題に限らず3者で意見交換するということでしょうか。

(委員) 教育分野や就職などの話題だけではなく、地元のことを考えるきっかけや、自分たちのまちの良さを知る機会があるといいのではないかと思います。企業も、できれば地元の企業が入れば、地元のことを分かっていますので、意見の幅が広がるのではないかと思います。

(事務局) 教育機関というのは、学校の先生に限らず、子どもたちも巻き込んで、地元愛を醸成するような取組みということでしょうか。

(委員) そうです。

(事務局) 評価結果について異議がある場合は、11日金曜日までにお知らせください。

(3) 鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について（資料3）

説明：政策企画課 主査

（委員）地域商業の活性化について、公共交通を利用している人が少ないことを考えると、商店街を歩く人を数えるほかに、車の通行量も調査した方が良いのではないかと思います。

（事務局）車の通行量調査も実施しています。

（委員）自分も最近は商店街を利用せず、通り過ぎてしまいます。市外の人から見れば、花輪の商店街のアーケードなどはとてもきれいだと感じるようです。

（事務局）5月と7月の休日と平日に調査していて、年によって上下は見られますが、平成30年度に比べ、令和元年度は車両通行量が増加しています。

（事務局）コモッセができてからは、駅前からコモッセ方向の流れが増えています。休日よりも平日の方が車や歩行者が多い傾向が見られます。週末にお店が開かれていないという影響もあるかもしれません。他の市町村の商店街に比べ、鹿角の商店街はいい環境だと思いますので、どうにかして生かしていければと考えていますが、モノの買い方も変わってきているので、商店だけにこだわらず、事業所など人が集まる場所を目指すべきなのかなと考えています。

（委員）高校がテスト期間になると、たくさんの学生がコモッセに集まって勉強しています。そのような場所が商店街にもあれば、親も迎えに来るので、人の流れができるのではないのでしょうか。

（事務局）コモッセの来館者は30万人ほどなので、かなりの人に利用されていますが、それが周りに波及していないので、何か仕掛けが必要なのかなと考えています。

（委員）コモッセで勉強場所が足りなくなることもあるようなので、そういう目的の場所が商店街にあってもいいのではないかと思います。

その他

・令和2年度行政評価のスケジュールについて（参考資料）

説明：政策企画課 主査

4 閉会（20：25 終了）